

生徒の学習意欲を高める教材の内容と提示の方法

英語教育専修 後藤正紘

1. はじめに

筆者は平成15年から始まった12年目岐阜大学研修を平成19年（本年度）までの5年間一貫して「生徒の学習意欲を高める教材の内容と提示の方法」というコース名で実施してきた。このようなコースを設定した理由とこのコース名を変更しなかった主な理由は次の2つである。

- (1) 筆者が12年目研修を受ける立場の教員であったなら受けたいと思う研修コースである。
- (2) 研修初年度から本コースでの研修を希望する教員が多く、しかも、研修修了後の教員の満足度もかなり高い。

以下、平成19年度の本コースの実施の報告をする。

2. 研修実践報告

(1) 研修コース名と研修内容

- ① 研修コース名：生徒の学習意欲を高める教材の内容と提示の方法
- ② 研修内容：生徒の学習意欲と学習効果の間には密接な関連性がある。そして、生徒の学習意欲を高めるための有益な方法の1つは教材の内容と提示の方法である。本コースでは楽しく、かつ、効果的な授業にとって不可欠である生徒の学習意欲を高める方法について、研修教員の実践報告を土台にしつつ改善をはかる。

(2) 研修教員個々の研修課題と研修構想

学校種	教諭名	フィールド	研修課題	研修構想
小学校	A	教科指導	英語を用いて、自己を表現しようとする実践的な態度の育成～小学校の英語教育における自己表現活動の工夫をとおして～	自己を表現しようとする意欲を高める学習課題の提示の在り方の究明
小学校	B	学級経営	一人一人が自ら考えて活動できる学級経営のあり方	小学校における英語学習
中学校	C	教科指導	主体的に学ぶ意欲を育てる指導の工夫・改善～小学校での英語教育をふまえた指導の工夫～	小学校での英語教育をふまえて、特に中1の生徒が意欲的に学習できる教材を開発し、学習指導の工夫・改善をする。
中学校	D	教科指導	基礎的・基本的な力を主体的に身につけ、その高まりを実感することができるコミュニケーション活動のあり方	生徒の学習意欲を高め、主体的に学び続ける力を育むために、どういった内容の教材をどのように提示することが必要なかを学び、授業で実践していきたいと考えている。

中学校	E	教科指導	英語科における個性伸長の在り方	生徒の学習意欲を高めるための教材研究の在り方。
中学校	F	教科指導	一人一人が伸び伸びとコミュニケーション活動に取り組める教科指導	生徒の学習意欲を高めるための効果的な授業の究明。
中学校	G	教科指導	生徒が自己表現を高める英語科の授業	生徒の学習意欲を高めるための有益な方法である教材の内容と提示の方法について学ぶ。

(3) 研修初日

研修初日の講義・演習のために次の教材を用意して配布した。

- ① クロスワードやグリッドグラムなど語彙力増強のためのワードゲーム
- ② アナグラムや英語を使ったダジャレ
- ③ 読解用の笑い話
- ④ カタカナ日本語を含む英作文
- ⑤ これからの英語教育に関する日本語論文（小学校英語や世界語としての英語に関する議論）
- ⑥ 観光と旅行のための英語教材
- ⑦ 曖昧文と袋小路文の実例
- ⑧ 英文英語学概論の中の2つの章（Morphology と Semantics の章）

各研修教員の自己紹介、本研修のオリエンテーション後に、各研修教員に上記①～⑧の教材を配布した。研修教員は小学校2名、中学校5名（加えて、今回は英国の大学の PhD Research Student である日本人1名）であった。

①～⑧のタイプの教材は研修教員が通常使用する教科書の内容に加えて、適宜使用すれば、生徒の学習意欲が高まると筆者が考えている種類の教材の一部である。すなわち、挑戦すること自体が楽しいし、問題の一部分にだけでも正解することができれば、大きな達成感が得られる教材だからである。

筆者は①、②、③、④、⑦は演習に適している教材であり、⑤、⑥、⑧は講義に適している教材であるとみなして研修を行った。次に実際に使用した教材の一部を紹介する。

教材①：クロスワードパズルのヒント（かぎ）

- ・ When you are angry, you are full of ____.
- ・ I'm busy today, but I'll be ____ on Saturday.
- ・ I have a lot of work to do. I'm very ____.
- ・ I'm ____ if I hurt you. I didn't mean to.
- ・ They are crossing the road to get to the ____ side.

教材②：アナグラム

- .. 例：was（～でした）→ saw（のこぎり） <ヒント>木を切るには（ ）を使います。
- ・ eat（食べる）→ ____（ ） <ヒント>私はコーヒーよりも（ ）の方が好きです。

- ・ are (～です) → ___ () <ヒント>平安 (), 江戸 (), 明治 ()
- ・ but (しかし) → ___ () <ヒント>風が吹けば () がもうかる。

教材②：ダジャレ

- ・ 元気な子供たちがキャンプに行きました。何泊してきたでしょうか？
- ・ 1円玉1枚の重さは1グラム、では新聞のテレビ欄の重さは？
- ・ クッキーやケーキがうまく焼ける県はどこでしょうか？
- ・ 悪人が2人で踊る時は、どんな曲に合わせて踊るでしょうか？
- ・ “My father is my mother.” を日本語にすると？

教材③：読解用の笑い話 (A shaggy dog story)

A man goes into a pet shop and asks to buy a shaggy dog. The shop keeper says, “What about this lovely shaggy Saint Bernard, sir?” It’s an enormous dog, and the man asks how much it costs. “100 pounds, sir.” The man isn’t sure, and asks to see another. The shop keeper shows him a shaggy terrier, much smaller but still very nice. The man asks the price and is told “200 pounds, sir.” The man asks to see one more dog, and is shown a tiny little shaggy Chihuahua, no more than 20 centimeters long. The price? “300 pounds, sir.”

After thinking for a little while, the man says, “And how much does it cost to buy no dog at all?”

教材④：カタカナ日本語を含む英作文

- ・ ふたを持ち上げるとそのオルゴールは素敵な曲を奏ではじめた。
- ・ 指のトゲを抜くためにピンセットが必要だ。
- ・ 私は英語をレベルアップしたい。
- ・ 健治はサーカスのピエロになりたいと思っている。

教材⑦：曖昧文と袋小路文の実例

- ・ Many people come to Japan every year.
- ・ Ernie didn’t talk until two o’clock.
- ・ The old men and women stayed at home.
- ・ Mary is a beautiful soprano.
- ・ The horse raced past the barn fell.
- ・ Sandra knew the answer to the difficult problem was correct.
- ・ After you drank the water was discovered to be polluted.

研修初日の午前の部では研修教員に教材①, ②, ③に取り組んでもらった。各教材に解答し始める前に15分程度の準備時間を与えた。そして、演習形式で研修を進めていった。教材の内容が面白く難易度も適切であったためか、研修教員は教材の解答に熱心に取り組んでくれた。

筆者の役割は主として進行係であった。午後の部では教材④、⑤、⑥、⑦、⑧に取り組んでもらった。教材④、⑥、⑦は演習形式で、教材⑤と⑧は講義・討論形式で研修を行った。研修教員は教材④からは多くのカタカナ日本語は正しい英語ではないことを、教材⑥からは一歩進んだ対話の方法を、教材⑦からは英文解釈の問題点について学んだ。そして、教材⑤では英語教育の現代的な話題について議論し、教材⑧では最新の言語学の思考方法を紹介した。

(4) 研修最終日

研修最終日には各研修教員が持参した（公開授業用の）学習指導案の発表と討論を行った。各研修教員が作成した学習指導案は立派なものであり、説明も要領を得ていた。発表した学習指導案に対する参加教員の間での質疑応答も活発であった。研修最終日における筆者の役割は、ほとんど聞き役であり、簡単にコメントするだけのものであった。

3. おわりに

今回、筆者のコースに参加した研修教員は全員10年間の教職経験者にふさわしい実力と熱意を兼ね備えていた。各研修教員から提出してもらった学習指導案を研修終了後に詳細に検討してやることによって、益々、その感を強くした。各研修教員は実に緻密に指導案を作成していた。学校種や学科、担当学年に違いはあったけれども、研修教員に共通するテーマは「コミュニケーション活動を通して、コミュニケーション能力の基礎的・基本的な力を主体的に身に付け、その高まりに喜びや価値を感じることが出来る学習活動」であった。研修教員たちが今回の研修内容を意識して学習指導案を作成したことは、その内容と発表の仕方から明らかであった。これは、つまり、研修教員が筆者のコースの研修内容からプラスの影響を受けた結果であると考えたい。

今回、筆者のコースに参加した研修教員は全員、意欲と実力を併せ持っていたので、筆者も楽しく研修を実施することができた。また、現在、英国の大学の Ph.D Research Student である日本人学生（インターネットでこの企画を知り、教員研修計画委員長の石川英志教授に依頼した学生）から研修への強い参加希望があったので、参加を許可したが、この学生は研修教員とは異なる立場から、いろいろと興味深い発言をしてくれたので、この学生の本研修への参加は研修教員にとっても有益であった。

なお、本コースは研修初日と研修最終日の両日、岐阜県教育委員会教育研修課の指導主事の方の訪問を受けた。12年目岐阜大学研修が大学教員と研修教員の双方にとって、さらに有意義な研修になることを願って止まない。